東北地方太平洋沖地震

じちろうNEWS

発　行　所
自治労地震対策本部
東京都千代田区六番町 1
TEL 03-3263-0262
FAX 03-5210-7422

3 月 11 日に発生した地震により、被害を受けた全ての皆さまに心からお見舞い申し上げます。自治労は今回の未曾有の大災害に対し、被災された県本部・単組と十分な連携をはかり、自治労組織を挙げて全力で可能な限りの支援を行います。3 月 30 日に決定した「自治労復興支援活動計画」に基づき 4 月 11 日から被災地支援行動を開始しています。

参加者の声

静岡の杉山淳さん（福島班）：

4 月 10 日からこの支援活動の第 1 グループに参加しました。意志統一会議では福島市長から「市職員が交代で避難所支援をしているが疲労している。福島県は原発と風評被害でたいへんだ、皆さんの支援に期待する。」との話があり、原発事故が周辺住民に大きすぎる影響、迷惑を与えていることを痛感しました。11 日 8 時から明日 8 時までの避難所での 24 時間対応に入りました。私たちが支援している福島市の避難所・飯野地区体育館は原発から 30km 内の方が避難している場所で、沿岸部の南相馬市と浪江町の方が避難しています。原発地域からの初期の避難所で、更に内陸の温泉地の避難所に移る方が徐々に増えている場所です。

避難所の仕事は食事の配布や掃除、炊き出し手伝いなどです。子供は避難所近くの小中学校に通っていますが、学校が再開できない高校生は暇でその相手をしています。福島の子は素朴ですぐに話ができました。原発の 20 キロ圏内には 5 校の県立高校があったそうです。5 月にはサテライト方式で高校を再開するとのことでしたが、避難所から通えるのか等問題は多いようです。4 月 13 日はドラマがありました。出身地区が違う高校生の涙の別れに立ち会いました。避難所に来るまでは知らない同士がこの一月間に親しくなり避難所内でもふたりで仲良く話をしていました。浪江町出身の女の子が別の避難所に移ることとなりました。別れるギリギリまで時間を惜しむように話をしていましたが 14 時の出発の時間になり涙の別れとなりました。お互いに携帯の番号とアドレスを交換したと言っていましたが、再び会う機会がわからないからだと思います。20 キロ圏内から避難してきた同じ境遇の者同士だからぐっときたものがあったのだなあーと感じました。また二人が早く再会できることに期待します。

16 日には無事に任務が完了しました。福島県原発事故の影響で全県が汚染・危険地域と思われがちですが、原発から 30 キロの圏外は(津波被害の沿岸地区を除き)、通常の市民生活に戻りつつあり、風評被害が深刻になっています。短い間でしたが、とても自分自身にとって勉強となった活動でした。